NIE実践報告

1．タイトル：☆「僕も私も新聞解説者~『元日の新聞』を紹介し合おう~」

2．学校名

長野県伊那市立長谷中学校

3．実践者名（代表者名）

木下　正彦

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

選択社会科　5人

6．単元（本時の学習課題）名

「僕も私も新聞解説者~『元日の新聞』を紹介し合おう~　」

7．目標(狙い)

生徒各自が分担した「元日の新聞」を紹介し合い、その内容を共通理解することによって、，それぞれの新聞が何を読者に伝えようとしているのかを考えることができる。

8．評価の視点

①どんな記事に対して、どんなどんな理由・気持ちから注目したかその立場が明確か（発表、表現から）
②自分なりの問題・課題意識が持てたか（質疑応答、ワークシートから）

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「新聞に触れ、知り、読み解き、考え、発信しよう」選択社会科12時間中の3時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①年末年始休業中の新聞を一通り見た上で、5社（朝日・讀賣・毎日・信濃毎日・長野日報）の元日付けの新聞を各自が選定し、みんなに紹介するため読み取り、内容を確認した。
②生徒各自が分担した「元日の新聞」を紹介し合い、その内容を共通理解することによって、それぞれの新聞が何を読者に伝えようとしているのかを考えた。
③各自がそれぞれの新聞を読み比べることにより、各新聞が何を伝えようとしているのかを、一覧表にまとめた。

（留意点）
・5紙の内訳は全国紙、県紙、地域紙とバラエティーに富ませ、新聞の特色がつかみやすいようにした。
・特に元日の新聞を扱うことで、日常的に接している特集記事にも目を向けさせた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・部構成の多い元日付けの新聞を一覧でき、さらに内容が各種各様の記事満載であり、大変だったが楽しみながら紹介記事を探せた。
・一人一人の記事紹介を受けて、話し合いの話題が広がっていった。

12．成果と課題

・実践校1年目として最大8社の新聞が生徒の目の前に置かれたことで、「比較読み」がしやすく、また同一日の新聞でも各社の取り上げ方や軽重が異なり、新聞読みのおもしろさに触れられた。
・1年次は社会科を中心とする活動になってしまったが、他教科や道徳・特別活動・総合的な学習の時間などの領域、さらには各種の掲示物や通信等の広報活動でも新聞記事は有用であるので、利用の幅を広げていきたい。